

「トンボはどこまで飛ぶかフォーラム」が10年の記録を発行 10年の活動で 分かったこと・変わったこと

2003年に京浜臨海部において、エコアツプや緑の拡充の推進を企業や市民、行政が連携して考えて、公開ビオトープや工場等が整備している緑地等でトンボの移動調査を行うことより、これらの緑地が生きものによってつながっていることを確認するために始められました。

※記事の一部は発行された「10年の記録」↓より引用

◆分かったこと

- 10年間で優占種の交代(シオカラトンボ → ショウジョウトンボ)が見られ、自然環境の質の向上が推測される
- 入船公園は京浜臨海部の里山的役割を果たしている若い固体やメスの生育地・休息地となっている。
- 臨海部のトンボは、内陸部に依存しない独自性がある
臨海部で捕獲された11種のうち、4種は内陸部で捕獲されておらず、自然豊かな内陸部に依存していないようだ。

◆変わったこと

- この調査活動や京浜の森づくりがきっかけで、2007年度より、遊休地に遊歩道を造成。駐車場だった場所にトンボ池を設置、2009年「JFEトンボみち」として、現在の調査場所となった。
10年間のトンボの移動事例(一度捕獲された個体が別の調査場所で捕獲又は確認)は10例ありますが、このうち、JFEトンボみちが関係するトンボの移動事例は5例ありました。
- チョウトンボは、2003年は1箇所だったが、2012年は6箇所を確認された。
特定の池から特定のトンボの分布が拡大していると考えられ、これは生きものによってつながっていることを示している。



～6月は環境月間～

ご案内

未来に引き継ぐ 京浜の森づくり 育樹のつどい

樹木の生長を見守り、緑地の手入れ(草取り等)を行う「育樹のつどい」のご案内です。ご家族や職場の仲間など、お誘い合わせの上、参加してみたいかがでしょうか。

【開催要領】

日 時:平成25年6月16日(日) 10時～12時(小雨決行)
会 場:末広水際線フロムナード
集 合:旧鶴見リサイクルプラザ前(ふれ～ゆ行バス終点下車)
その他:作業の出来る服装で参加【参加費無料】
主 催:末広地区 緑のまちづくり協議会

5月26日(日)は
「親子で生きもの観察会2013」
会場はJFEトンボみち
(ファンクラブ活動終了後)
ご協力をお願いします
※雨天時は室内にて実施します



京浜の森ロゴマーク

トンボみちなんでも調査隊

皆さんの「？」を調査します。調査した結果を報告します。
皆さんの「？」を事務局へお寄せ下さい。

今回はJR鶴見線「弁天橋駅」について調べました！

～～JFEトンボみちの東側にあるもうひとつの最奇駅～～

先月号までは、鶴見小野駅、鶴見川口駅について報告しましたが、今回は、「弁天橋駅」について報告します。弁天橋駅は、大正15年(1926年)に鶴見臨港鉄道(貨物専用)として開業した浜川崎駅からの終着駅として開業。昭和5年(1930年)旅客営業開始と共に、(仮)鶴見駅まで延伸しました。

(あれ!?, 3月号では鶴見小野駅の開業は昭和11年ですので、この時点では鶴見小野駅はなかったのですね。)

近年の一日平均乗車人員は約5,000名で、以前は改札を出てすぐ右側にキヨスクもありました。(調査員:相馬)



《「弁天橋駅」駅名の由来》

弁天橋駅の近くに漁師の守護神「弁天神」が奉られている池があり、その池に「赤い橋」が架かっていたことからその駅名がつけられたとのこと。

しかし、未だその「池」が何処にあったのかは特定できていません。どなたかお分かりの方がいらっしゃいましたら事務局へお知らせください。

参考文献:①フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

(シリーズ) トンボみちの仲間たち

※訂正 4月号のこの欄に掲載のファンクラブ活動日に誤記がありました。
誤:2月23日(土)、正:3月23日(土)。お詫びして訂正いたします。

4月27日(土)のファンクラブ活動の様子です。(撮影:山田裕子さん)



これからの活動予定です。雨天は1週間延期

今月: 5月26日(日) 8時～10時

来月: 6月22日(土) 7時～9時

※5月26日 10時～12時は「親子で生きもの観察会2013」(雨天は屋内実施)を開催します

発行日: 2013年 5月22日

発行者: トンボみちファンクラブ事務局

事務局: 〒230-8611 横浜市鶴見区末広町2-1

JFEエンジニアリング(株)鶴見製作所 環境保全室

Tel045-505-7447, Fax045-505-6546

ファンクラブ通信への自由投稿をお待ちしています。